

する故、くだきすてたりと云り、

〔蔭涼軒日録〕延徳二年十二月五日、略○中 光通西堂持一纏白磁小皿二十箇來、伸公帖謝、

〔東大寺正倉院御寶庫御開封記録〕御寶物目錄

一瑪瑙皿 龜 一

〔十訓抄〕八 白河院は、花盛雪の朝必御覽じて、もてなさせおはしましけり、略○中 雪は北ざまがめで

たき也、小野の方へと仰有ければ、殿上人上達部うちむれてつかうまつる、皇太后宮の御方へと

仰あれば、人々つかうまつりて、門の外におり立たりければ、御車をばかきはづし、略○中 童の十七

八計なるが、綠青にて色どりたる折鋪に、金の御盃すゑて、こんるりの御皿に、銀にてまたるは餅

をもりたり、葉をば青く色どりて、今かたつかたは同御皿に、ざくろをもられたり、○又見古著聞集

〔古事談〕三 又人ヲ呼テ、此御房ニ可然物マイラセヨト有ケレバ、天童瑠璃ノ皿ニ、カラノ梨子ノム

キタルヲ、四果モリテ置、略○下

〔江家次第〕十一 月朔旦旬、略○中

内豎各持朱盤

新嘗會裝束、略○中

以七寸朱漆盤盛菓子

〔延喜式〕造酒十 諸節供御酒器

朱漆大盤一枚、朱漆中盤一枚

〔江家次第〕七八 月七日乞巧奠事、略○中

以上並尾張青瓷有朱漆華盤、西北机、略○中 居朱彩華盤一口、

〔山槐記〕長寛二年三月廿七日、略○中 飯盛塗筒覆蓋黒漆盤也、

以製作爲名